
NOPRINT ;

機能:

NOPRINT は、データのロードセクションでインプットデータのプリントをしません。この指定は自由形式でのみ有効です。固定形式で読み込まれるデータは、いづれにしてもプリントされません。NOPRINT は通常の TSP バッチ・アウトプットファイルでのコマンド行のリストもしません。PRINT ; コマンドはリストを再開するのに使うことができます。

使用法:

NOPRINT の指定を読み込まれるデータのプリントを止めたい任意の場所に置いて下さい。この指定はデータ部が終了するまで有効です。このコマンドを LOAD 文とそれに続くデータの間に置いてはいけません。LOAD 文とデータは続いているといけません。LOAD 文自体でも、PRINT/NOPRINT の指定はオプションで可能です。

NOPRINT はまた長いバッチファイルやインプットファイルでのコマンドをエコーするのを止めるのに使うことができます。これは、デバッグ済みのプログラムの場合だけに使われます。それはもしエラーがプログラムの実行中に起こった場合、正確にどのコマンドを実行中に起こったのか見分けるのが難しいためです。(コマンドは順に番号がつけられていますが、ファイル内の物理的な行番号ではありません)。NOPRINT ; コマンドの範囲は、後に続く任意の入れ子になっている INPUT ファイルに拡張することができます。もし、NOPRINT モードにあるコマンドを実行中にエラーが起こったら、問題の行が出力されます。

例:

次の LOAD 部分の例では、データのプリントをすべて中止する NOPRINT コマンドの使い方を示します。

```
NOPRINT ;
FREQ A ; SMPL 20 41 ;
LOAD YEAR CX I G YT K1 P W1 W2 Y ;
1920 39.8 2.7 4.6 47.1 180.1 12.7 28.8 2.2 43.7
1921 41.9 -.2 6.6 48.3 182.8 12.4 25.5 2.7 40.6
      .....データ続く.....
;
END ;
```

完全にデバッグ済みの INPUT ファイル中に PROC があるとして、使うたびにアウトプット現れないようにするには、NOPRINT ; コマンドを引数を記述するコメントのすぐ後に置きます。

```
PROC HPTD Y YSM LAMBDA;
? Hodrick-Prescott Trend Decompositon
? Y=input variable, YSM=output smoothed variable, LAMBDA=smoothing constant
NOPRINT;
```